二〇二六年五月二十四日（日）

創建四〇〇年
記念法要

真宗大谷派 摂取山
専行寺

目次

◇私たちの真宗 ―― 2
◇ご挨拶　専行寺住職 平松正信 ―― 3
◇法要次第 ―― 4
◇式次第 ―― 5
◇三帰依文（原文と意訳） ―― 6
◇仏説阿弥陀経 ―― 8
◇本願寺の法統と専行寺 ―― 18
◇創建四〇〇年記念事業 ―― 20
◇ご本尊の「新宿区指定文化財」指定 ―― 22
◇先達の言葉Ⅰ「その人」　米沢英雄 ―― 24
◇先達の言葉Ⅱ「宗祖を憶ふ」金子大栄 ―― 26
◇寺の活動 ―― 27

私たちの真宗

【本尊】阿弥陀如来（南無阿弥陀仏）

【経典】『仏説無量寿経』（大経）
『仏説観無量寿経』（観経）
『仏説阿弥陀経』（小経）

【宗祖】親鸞聖人（一一七三～一二六二）

【宗祖の主著】『顕浄土真実教行証文類』（教行信証）

【宗旨】浄土真宗

【宗派】真宗大谷派

【本山】真宗本廟（京都・東本願寺）

【教え】本願を信じ、念仏申さば仏になる

【勤行】正信偈・念仏・和讃・回向

【宗風】礼拝 ― 毎朝ご本尊に礼拝し一日を始めよう
聞法 ― 念仏の教えを聞き同朋（とも）を見出そう
正信 ― 迷信に惑わされず確かな人生を歩もう

ご挨拶

専行寺第十四世住職　平松正信（釋正信）

二五〇〇年の昔、お釈迦さまによって初めて仏教という教えが明らかにされました。涅槃に入られる時に遺された最後の説法が「自灯明・法灯明」（自らを灯とし、法を灯とせよ）というお言葉です。「生身の人間は諸行無常であり必ず滅びるが、法（ダルマ）は永遠普遍の真理である。だから、私に頼るのではなく、今まで私が説き続けた法をこそ迷いの人生の灯として歩んでほしい」こう語られました。

法は人を通して伝承されます。しかし、その法を大切に受け継ぎ伝える場所がなければ、法の根を下ろす大地が失われてしまいます。この大切な法の灯を絶やすことなく継承することが寺の使命であり、寺をあずかる住職の責務でありましょう。このたび専行寺が法灯継承四〇〇年の節目を迎え、多くの有縁の皆様とともに遇い難き法要を勤めさせていただけますことは、誠に稀有なことであり、無上の慶びとするところでございます。

浄土真宗の寺院は「仏法聴聞の道場」です。私たち真宗門徒は聞かせていただいた法を自分の生活を通して深くうなずき、人生の確かな灯としてまいりました。そして今を生きる私たち自身がそうした歩みをさせていただくことによって、法の灯を次世代に手渡すことができるのではないでしょうか。

記念事業につきましては、多くの皆様よりご協賛をいただいておりますことを厚く御礼申し上げます。ご修復を進めてまいりましたご本尊「阿弥陀如来像」が、法要直前の五月一日付けで新宿区でも最古級の仏像として「区指定有形文化財」の指定を受けましたことは、まったく思いがけないことでした。この慶事を仏法相続の勝縁とし、これまで当寺をお支えくださった多くの先人を憶念し、私たち自身の信を深めていく大切な法要として勤めさせていただきたいと念じています。本日はご参拝くださり誠にありがとうございます。

法要次第

日　程

十三時十五分【開　　式】挨拶・記念事業報告
十三時三〇分【記念講演】一楽真先生
十四時三〇分【記念法要】入楽法要（散華の儀式あり）
十五時三〇分【閉　　式】

記念講演

「仏法に遇うということ―歴史への参画―」
一楽真先生（大谷大学前学長）

一九五七年生まれ。宗圓寺ご住職（石川県小松市）。ご専門は真宗学・日本仏教思想・親鸞研究。著書に『親鸞入門』『阿弥陀経入門』『親鸞の教化―和語聖教の世界』（以上、東本願寺出版）『大無量寿経講義―尊者阿難、座より立ち』（文栄堂）など多数。

「入楽法要」について

真宗大谷派の法要儀式において、出仕・退出の際や読経に合わせて雅楽を演奏することを「附楽」といい「入楽法要」とも呼びます。雅楽は元来管弦と舞楽の演奏形態ですが、大谷派では弦楽器を用いない独自の演奏が伝承されてきました。儀式をより厳粛なものとする浄土の荘厳です。

清風宝樹をふくときは　いつつの音声いだしつつ
宮商和して自然なり　清浄勲を礼すべし

『浄土和讃』親鸞

「散華」の儀式について

仏の覚りをあらわす蓮華をかたどった「葩」を撒き、仏をご供養（お敬い）する儀式です。仏・菩薩を讃嘆するときに天空から華（花）が降るという経説に由来する儀式です。私たちも、仏法聴聞に無上の喜びを見い出すお念仏の生活を通して、仏・菩薩を讃嘆供養し、人生を荘厳する歩みをさせていただきましょう。

式次第

一　献灯献華（雅楽奏上）
二　出仕（雅楽奏上）
三　総礼
四　伽陀

⬇参列者を代表しておふたりが仏前に「灯」と「華」を供えます。

一同で合掌・礼拝・念仏

⬇『法事讃』（善導）の一節が声高らかに勤められ、仏・菩薩衆がこの法会に来臨されることを希います。

五　登高座（雅楽奏上）
六　焼香
七　表白

一同で合掌・礼拝・念仏

⬇住職が法要の趣旨を仏前にて申し述べ、参列者一同にもあまねくお伝えします。

八　阿弥陀経（呉音読み）

一同で唱和　本パンフレット 八頁〜十七頁

九　下高座（雅楽奏上）
十　散華（雅楽奏上）

⬇参勤の僧侶衆が、仏の覚りをあらわす蓮華の「葩」を撒き、仏をご供養（お敬い）致します。

十一　正信偈 同朋奉讃式

一同で唱和　『正信偈 同朋唱和』勤行本 四頁〜四十一頁

十二　総礼
十三　退出（雅楽奏上）

一同で合掌・礼拝・念仏

三帰依文

人身受け難し、いますでに受く。仏法聞き難し、いますでに聞く。
この身今生において度せずんば、さらにいずれの生においてか
この身を度せん。大衆もろともに、至心に三宝に帰依し奉るべし。
自ら仏に帰依したてまつる。まさに願わくは衆生とともに、
大道を体解して、無上意を発さん。
自ら法に帰依したてまつる。まさに願わくは衆生とともに、
深く経蔵に入りて、智慧海のごとくならん。
自ら僧に帰依したてまつる。まさに願わくは衆生とともに、
大衆を統理して、一切無碍ならん。
無上甚深微妙の法は百千万劫にも遭遇うこと難し。我いま見聞し
受持することを得たり。願わくは如来の真実義を解したてまつらん。

三帰依文〈意訳〉

人間としてこの世に生を受けることは難しいことですが、今すでに授かることを得ました。仏法にめぐりあうことは難しいことですが、今すでにお聞きすることができました。わたしがこの生涯において救われなければ、どれほど生まれ変わりをして迷いから目覚めるというのでしょう。だからこそ、人々と共に、心から仏・法・僧の三宝を尊び、よりどころにして生きることを誓います。

わたしは、仏―ブッダを敬い、よりどころにして生きていきます。どうか人々と共に、真理の法を説かれた仏の正しい道を体得し、人間を成就する大いなる心をおこすことができますように。

わたしは、法―ダルマを敬い、よりどころにして生きていきます。どうか人々と共に、真実の教えを深くたずねて、海のように深い智慧をいただくことができますように。

わたしは、僧―サンガを敬い、よりどころにして生きていきます。どうか人々と共に、仏道を歩む人びとが道理によっておさめられ、障りのない自由で平等な交わりが開かれていきますように。

この上なく奥深い妙なる法―真実というものは、どれほど長い時の流れを経たとしてもめぐりあうことは難しいことでしょう。それにもかかわらず、わたしは今ここにはからずも出遇うことができました。どうか願わくば、如来―みほとけの真実の教えに深く頷きつつ歩んでいくことができますように。

〈参考〉真宗大谷派児童教化連盟刊『いのち』

佛説阿彌陀經

姚秦三藏法師鳩摩羅什奉詔譯

阿弥陀仏の功徳とその国である極楽・浄土の荘厳を説き、称名念仏によって往生することを勧める経典。漢訳は鳩摩羅什。

如是我聞一時佛在舍衛國祇樹給孤獨園與大比丘
衆千二百五十人俱皆是大阿羅漢衆所知識長老舍
利弗摩訶目犍連摩訶迦葉摩訶迦旃延摩訶俱絺羅
離婆多周利槃陀伽難陀阿難陀羅睺羅憍梵波提賓
頭盧頗羅墮迦留陀夷摩訶劫賓那薄拘羅阿㝹樓馱
如是等諸大弟子并諸菩薩摩訶薩文殊師利法王子
阿逸多菩薩乾陀訶提菩薩常精進菩薩與如是等諸
大菩薩及釋提桓因等無量諸天大衆俱

爾時佛告長老舍利弗從是西方過十万億佛土有世界名曰極樂其土有佛號阿彌陀今現在說法舍利弗彼土何故名為極樂其國衆生無有衆苦但受諸樂故名極樂

又舍利弗極樂國土七重欄楯七重羅網七重行樹皆是四寶周帀圍繞是故彼國名曰極樂又舍利弗極樂國土有七寶池八功德水充滿其中池底純以金沙布地四邊階道金銀瑠璃玻瓈合成上有樓閣亦以金銀瑠璃玻瓈硨磲赤珠碼碯而嚴飾之池中蓮華大如車輪青色青光黃色黃光赤色赤光白色白光

微妙香潔舍利弗極樂國土成就如是功德莊嚴

又舍利弗彼佛國土常作天樂黃金為地晝夜六時

而雨曼陀羅華其國衆生常以清旦各以衣裓盛衆妙

華供養他方十万億佛即以食時還到本國飯食經行

舍利弗極樂國土成就如是功德莊嚴

復次舍利弗彼國常有種種奇妙雜色之鳥白鵠孔雀

鸚鵡舍利迦陵頻伽共命之鳥是諸衆鳥晝夜六時

出和雅音其音演暢五根五力七菩提分八聖道分

如是等法其土衆生聞是音已皆悉念佛念法念僧

舍利弗汝勿謂此鳥實是罪報所生所以者何彼佛國土

無三惡趣舍利弗其佛國土尚無三惡道之名何況有實是諸衆鳥皆是阿彌陀佛欲令法音宣流變化所作舍利弗彼佛國土微風吹動諸寶行樹及寶羅網出微妙音譬如百千種樂同時俱作聞是音者皆自然生念佛念法念僧之心舍利弗其佛國土成就如是功德莊嚴

○舍利弗於汝意云何彼佛何故號阿彌陀舍利弗彼佛光明無量照十方國無所障礙是故號為阿彌陀又舍利弗彼佛壽命及其人民無量無邊阿僧祇劫故名阿彌陀舍利弗阿彌陀佛成佛已來於今十劫又

舍利弗彼佛有無量無邊聲聞弟子皆阿羅漢非是算
數之所能知諸菩薩衆亦復如是舍利弗彼佛國土
成就如是功德莊嚴
又舍利弗極樂國土衆生生者皆是阿鞞跋致其中多有
一生補處其數甚多非是算數所能知之但可以無量
無邊阿僧祇劫說舍利弗衆生聞者應當發願願生
彼國所以者何得與如是諸上善人俱會一處舍利弗
不可以少善根福德因緣得生彼國
舍利弗若有善男子善女人聞說阿彌陀佛執持名號
若一日若二日若三日若四日若五日若六日若七日

一心不亂其人臨命終時阿彌陀佛與諸聖衆現在其前是人終時心不顛倒即得往生阿彌陀佛極樂國土舍利弗我見是利故說此言若有衆生聞是說者應當發願生彼國土

舍利弗如我今者讚歎阿彌陀佛不可思議功德東方亦有阿閦鞞佛須彌相佛大須彌佛須彌光佛妙音佛如是等恒河沙數諸佛各於其國出廣長舌相徧覆三千大千世界說誠實言汝等衆生當信是稱讚不可思議功德一切諸佛所護念經

舍利弗南方世界有日月燈佛名聞光佛大焰肩佛

須彌燈佛・無量精進佛・如是等・恒河沙數諸佛・各於其國・出廣長舌相・徧覆三千大千世界・說誠實言・汝等衆生・當信是稱讃・不可思議功德・一切諸佛・所護念經・

舍利弗・西方世界・有無量壽佛・無量相佛・無量幢佛・大光佛・大明佛・寶相佛・淨光佛・如是等・恒河沙數諸佛・各於其國・出廣長舌相・徧覆三千大千世界・說誠實言・汝等衆生・當信是稱讃・不可思議功德・一切諸佛・所護念經・

舍利弗・北方世界・有焰肩佛・最勝音佛・難沮佛・日生佛・網明佛・如是等・恒河沙數諸佛・各於其國・出廣長

舌相偏覆三千大千世界說誠實言汝等衆生當信是
稱讃不可思議功德一切諸佛所護念經
舍利弗下方世界有師子佛名聞佛名光佛達摩佛
法幢佛持法佛如是等恒河沙數諸佛各於其國出
廣長舌相偏覆三千大千世界說誠實言汝等衆生當
信是稱讃不可思議功德一切諸佛所護念經
舍利弗上方世界有梵音佛宿王佛香上佛香光佛
大焰肩佛雜色寶華嚴身佛娑羅樹王佛寶華德佛見
一切義佛如須彌山佛如是等恒河沙數諸佛各於其
國出廣長舌相偏覆三千大千世界說誠實言汝等衆生

當信是稱讃不可思議功德一切諸佛所護念經

舍利弗於汝意云何何故名為一切諸佛所護念經

舍利弗若有善男子善女人聞是諸佛所說名及經名者

是諸善男子善女人皆為一切諸佛共所護念皆得不

退轉於阿耨多羅三藐三菩提是故舍利弗汝等皆當

信受我語及諸佛所說舍利弗若有人已發願今發願

當發願欲生阿彌陀佛國者是諸人等皆得不退轉於

阿耨多羅三藐三菩提於彼國土若已生若今生若

當生是故舍利弗諸善男子善女人若有信者應當

發願生彼國土

○舍利弗如我今者稱讃諸佛不可思議功德彼諸佛等亦稱説我不可思議功德而作是言釋迦牟尼佛能為甚難希有之事能於娑婆國土五濁惡世劫濁見濁煩惱濁衆生濁命濁中得阿耨多羅三藐三菩提為諸衆生説是一切世間難信之法舍利弗當知我於五濁惡世行此難事得阿耨多羅三藐三菩提為一切世間説此難信之法是為甚難佛説此經已舍利弗及諸比丘一切世間天人阿脩羅等聞佛所説歡喜信受作禮而去

佛説阿彌陀經

旧本堂内陣 撮影年月不詳

旧本堂外観 1940 年（昭和 15）頃撮影

本願寺の法統と専行寺

宗祖親鸞聖人の滅後、一二七二年（文永九）に京都・吉水北に大谷廟堂が建立され、聖人の影像が安置されました。ここに遺弟が集い、やがて聞法者の交わりが生まれてきたのが本願寺の源流です。時はくだって一六〇二年（慶長七）徳川家康が本願寺第十二世・教如上人に京都・烏丸六条の寺地を寄進し東本願寺が創建されました。この教如上人の弟子・安養坊釋了善（あんにょうぼうしゃくりょうぜん）は、三河長縄に草庵を結んでいましたが、徳川家康とともに江戸に移り、一五九〇年（天正十八）に外神田に光瑞寺を創建、寺は教如上人に献じられ東本願寺江戸掛所（宿坊）となり、のちに浅草本願寺となりました。その後、了善は隠居屋敷として願正寺を構えました。

専行寺の開基・成覚坊釋了察は、了善の弟子となり、一六二〇年（元和六）武蔵国豊島郡江戸番町三丁目谷六丁目（現在の東京都千代田区二番町付近）に寺基を構えました。これが当寺の濫觴と伝えられます。一七一七年（享保二）に同地で類焼に遭い、翌年に新宿牛込原町の現今の地に移転し復興。一八五九年（安政六）に再び類焼するも中興八世法雲によって再興されました。現在の本堂は一九七七年（昭和五二）に再建されたものです。

※創建年については、「専行寺縁起」による一六二〇年（元和六）説、一六二九年（寛永六）説のほか、『牛込寺社書上七』による一六四六年（正保三）説があります。

創建四〇〇年記念事業

一　ご懇志進納

「親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要」記念事業（東本願寺慶讃法要・聖教編纂・境内整備等）へのご懇志を真宗大谷派へ進納（専行寺門徒分担金）

二　ご本尊修復

「阿弥陀如来木像」をご修復

（二〇二六年五月一日付けで「新宿区指定有形文化財」に決定）

三　お仏具修復

「金灯籠」「瓔珞」・欄間上部金紙張工事

四　ご宝物修復

「歴代住職法名軸」「松林桂月画伯書簡」（専行寺宛）を額装

五　ご本堂改修

本堂前北階段のタイル張り・高欄ステンレス工事

六　墓地の整備

原町墓地の旧無縁塔を第二共同墓「専行寺御廟」として再建

七　そのほか

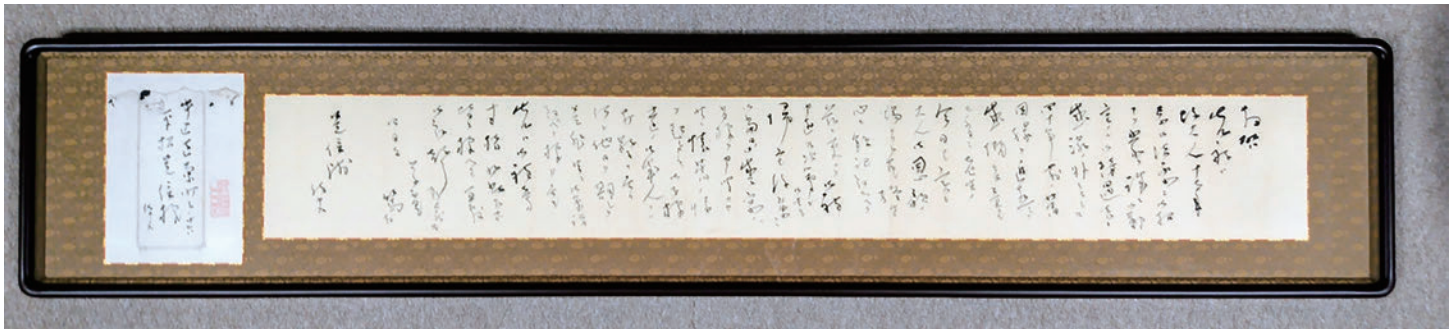
一階書院テーブル席設営・本堂・書院エアコン機器交換ほか

本尊・金灯籠・瓔珞

東本願寺御影堂

北階段タイルと高欄ステンレス工事

歴代住職法名軸額装



松林桂月画伯　専行寺宛書簡

一階書院テーブル席

第二共同墓（旧無縁塔）

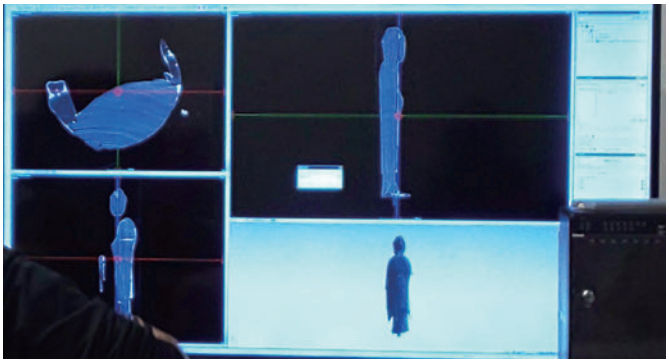
ご本尊の「新宿区指定有形文化財」指定について

このたびのご本尊「阿弥陀如来像」修復事業は、稲木吉一先生（女子美術大学教授）・小林裕子先生（京都橘大学教授）による事前調査と監修のもと、仏師・明珍素也先生（武蔵野美術大学客員教授）の手によって二年間にわたって進められました。エックス線CT撮影と修復時の詳細調査の結果、平安末期から鎌倉初頭に制作された、新宿区でも最古級の仏像であることが判明し、二〇二六年五月一日付けで、「専行寺の木造阿弥陀如来立像」として新宿区指定有形文化財（彫刻）として指定されました。（指定第一三八号）

ご修復前のご本尊

仏師・明珍先生の工房での打ち合わせ

ご修復後の還座



CT 撮影映像

新宿区ホームページより

十三重の蓮華座上に来迎印を結んで直立する阿弥陀如来像で、真宗大谷派専行寺（せんぎょうじ）の本尊です。一木造り、檜材。総高一〇八、九センチ、像高五一、四センチ。令和三年から五年にかけて保存修理が行われました。その像容と作風から平安時代末から鎌倉時代初めの制作と推定され、新宿区内でこれまで確認された仏像としては、龍善寺の本尊・木造阿弥陀如来立像（区指定文化財）と並び最古級の像です。

江戸時代初期に番町に創建した専行寺は、享保二年（一七一七）に類焼後、牛込原町に移転しましたが、その後安政六年（一八五九）にも類焼しており、「専行寺縁起」には二度目の類焼で仏具・家財・宝物・過去帳・記録等を失ったとの記述があります。本像が専行寺創建時からの根本本尊であったのか、あるいは類焼によりあらたに迎えられたのかは、現在残されている記録等から判断することはできませんが、江戸の寺院に古仏が伝来し、守られてきたことは、今後の研究にも寄与する事例であり、本像は仏教史上、美術史上重要な作品です。

先達の言葉Ⅰ

「その人」

米沢英雄

その人が亡くなってから七百年にもなるという
だがその面影は昨日の様に鮮やかだ
その人の苦悩　その克服
又苦悩を克服し得た歓びは短い言葉に結晶した
その言葉はその人よりももっと昔
悠久な時の中を生きつゞけて来たのだという

その人は演説しなかった
その人は怒号しなかった
その人は激昂しなかった
いつもしずかに自分自身に言いきかせていた

その人は大げさなジェスチュアをしなかった
人類のためにつかわされたとは言わなかった
人類の身代りになるとも言わなかった
自分一人の始末がつきかねるといつもひとり歎いていた

その人は子供を喜ばすプレゼントをもって来なかった
みんなに倖せを約束しなかった
只古臭い言葉に新しい命を裏打ちして遺して行っただけだった
その人の悲しみを救うたものこそ
その人の遺して行った言葉こそ
人類のすべてがやがて仰がねばならぬものではなかったか

その人の生涯は はじめから不幸だった
幼くして両親に死別れ　唯一人の 師と頼んだ人にも生別し
家をなしたのも束の間　一家は離散し　諸国を放浪し
この世の片隅に一人しずかに生きて
魚の餌食になりたいというて死んで行った

その人の小さな内省的な眼
あれが自己の中に巣喰うて遂に離れぬエゴイズムを
しばらくも見逃さずみつめつゞけた眼だ
之が生涯この人を泣かしめた　またその故に本願を仰がしめた

世間的には 不幸な生涯ではあったが
その生涯の支えとなった本願と
本願の生きた証明者であるその師に
遭い得たことを最勝の歓びとして
やすらかに往生したという

その人の御名の語られるところ
そこには今もしずかな喜びがあふれ
涅槃に似た平安（やすらぎ）がある
その人はその後幾多の魂の中に転生した
之からもどれだけの魂に宿り　その悩めるものを勇気づけ
真実の喜びを与えて行くことであろう
噫　あなたこそ無量寿であり無量光ではないか

あなたによって真実に眼を開かれた私は
本願の松明（たいまつ）をリレーする走者となって
命の限り走りつゞけて　自らを照らすと共に
次のジェネレーションに　確かに手渡さねばならぬと
今改めて思う

先達の言葉 Ⅱ

「宗祖を憶ふ」

金子大栄

昔 法師あり 親鸞と名づく
殿上に生れて庶民の心あり
貪道となりて高貴の性を失はず
已(すで)にして愛欲の断ち難きを知り
俗に帰れども道心を捨てず
一生凡夫にして 大涅槃の終りを期す
人間を懐かしみつつ 人に昵(なじ)む能はず
名利の空(くう)なるを知りて 離れ得ざるを悲しむ
流浪の生涯に常楽の郷里を慕ひ
孤独の淋しさに萬人の悩みを思ふ
聖教を披(ひら)くも 文字を見ず
ただ言葉のひびきをきく
正法を説けども 師弟を言はず

ひとへに同朋の縁をよろこぶ
本願を仰いでは 身の善悪をかへりみず
念仏に親しんでは 自(おのず)から 無碍の一道を知る
人に知られざるを憂へず
ただ世を汚さんことを恐る
己身(こしん)の罪障(ざいしょう)に徹して 一切群生の救ひを願ふ
その人逝きて数世紀
長(とこし)へに死せるが如し
その人去りて七百年
今なほ生けるが如し
その人を憶(おも)ひてわれは生き
その人を忘れてわれは迷う
曠劫多生(こうごうたしょう)の縁 よろこびつくることなし

寺の活動

定例法要

- 修正会（しゅしょうえ）　元日
- 春彼岸法要（はるひがん）　春分の日
- 永代経法要（えいたいきょう）　五月の日曜日
- お盆（ぼん）法要　七月の日曜日
- 秋彼岸（あきひがん）法要　秋分の日
- 報恩講（ほうおんこう）　十一月三日・文化の日

集会

- 仏教入門講座（偶数月）

テーマ　「和讃のこころ」

講師　　海 法龍 先生（長願寺住職・東本願寺教導）

※連続講座ですが、いつでも出発点になります。

お気軽にどうぞ！

- テラヨガ（毎週木曜夜と日曜朝）

主催 NPO法人VYS　YOGI

- 茶道教室・こども茶道教室（適宜開催）
- 輪読会（奉仕活動日の午後）

仏教書や『同朋新聞』『サンガ』などの輪読。

- 参拝旅行（年1回）

東本願寺や各地の別院などを参拝（ミニ法話あり）

奉仕活動（年6回・定例法要の前）

- 仏具磨きボランティア
- 年末煤払い

〒一六二-〇〇五三
東京都新宿区原町三―二十六

真宗大谷派　専行寺

TEL　〇三―三二〇三―七六二五
FAX　〇三―三二〇三―〇〇七〇

専行寺サイト